

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：34401

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K17627

研究課題名（和文）都市部の男性高齢者における介護予防活動を活用した地域のつながり強化に関する研究

研究課題名（英文）Study on reinforcing regional relationships in urban elderly males that makes use of resident-led preventive care activities

研究代表者

山埜 ふみ恵（Yamano, Fumie）

大阪医科薬科大学・看護学部・講師

研究者番号：60782266

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は地域のつながり構築に向けて、地域で行われている住民主体の介護予防活動における参加者同士のソーシャルサポートの内容や授受を促進する具体的な要因を明らかにすることを目的とした。自主グループのリーダーを対象に、インタビュー調査を実施した。分析の結果、情緒的・情動的・評価的サポートが参加者同士で授受されていた。また、活動を通して地域のつながりを構築したい思いが、活動内のサポート授受を促すきっかけとなっていた。また参加者の潜在能力を引き出す関わりとサポートしやすい雰囲気づくりを大事にするなどの参加者同士のサポート授受を促す要因が明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

介護予防活動の参加者間で取り交わされているサポートの内容やサポート授受の関係性を築くための要因が明らかになり、サポート授受を促進する支援について検討するための基礎資料を得ることができたと考える。活動の場が高齢者同士のサポート授受のきっかけの場となり、将来的には地域のつながり構築の仕組みづくりにもつながると考えられる。介護予防活動を通して、住民同士がサポートしあう地域づくりにつなげることが重要である。

研究成果の概要（英文）：This study focused on resident-led preventive care activities being held in local communities towards building regional relationships, and aimed to clarify the specific factors to promote reciprocal exchange of support among participants in resident-led preventive care activities. An interview was carried out, targeting voluntary group leaders. Analysis of the findings showed that the participants were exchanging emotional, informational and evaluative support between themselves. Their hopes to build regional relationships through these activities had prompted their offering and receiving of support within the programs. The survey also revealed other factors that encouraged the offering and receiving of support between the participants, such as emphasizing interactions that bring out the participants' potential and creating an atmosphere that facilitates the offering of support.

研究分野：地域看護学分野

キーワード：地域のつながり ソーシャルサポート授受 介護予防 高齢者

## 1. 研究開始当初の背景

わが国の超高齢社会における課題の1つとして、地域在住高齢者の社会的孤立がある。独居や高齢者のみの世帯の増加といった今後の社会構造の変化に対応するためには、家族のみならず地域のつながりが必要不可欠である。しかし、特に都市部では地域のつながりや関係性が希薄化しており(厚生労働省、2013) そのつながりの強化には何らかの工夫が必要である。そこで申請者は、その工夫の1つとして「介護予防活動」に焦点をあて、それを通じて地域のつながりの強化に展開する可能性を考えた。

これまでに申請者は以下のような研究結果を得ている。

地域在住高齢者のソーシャルサポート(以下サポート)授受の現状と課題について文献レビューを行った(山埜ら、2015)。その結果、超高齢社会における高齢者の「互助」の仕組みづくりのためには、家族以外の身近な他者ともバランスのとれたサポート授受の関係性が重要であり、そのためには地域でサポート授受のきっかけの場が求められていることが明らかとなった。

「都市部の介護予防活動における参加者同士のサポート授受が日常的な近隣とのつながりに及ぼす影響」をテーマに無記名自記式質問紙調査を用いた量的研究を行った。その結果、介護予防活動内で参加者同士がお互いに情緒的サポートを授受しあうバランスのとれた関係性は、近隣とのつながりに良好な影響を及ぼす可能性が示唆された(山埜ら、2020)。さらに男性高齢者の特徴として女性に比べ、一方的にサポート受領する等サポート授受のバランスがとれていないことが明らかとなった。

これらの結果から、介護予防活動を通した都市部の地域のつながりの構築の仕組みづくりに向けた今後の課題として男性高齢者に焦点をあて、「地域で行われる介護予防活動内での参加者同士のサポート授受の促進に向けた具体的な支援の検討」が必要であると考えられる。

## 2. 研究の目的

地域のつながり構築に向けて、都市部の介護予防活動における参加者同士のサポート内容やおよびサポート授受を促進する具体的な要因や性差の特徴を明らかにし、支援のあり方を検討する。

## 3. 研究の方法

### (1) 研究対象者の焦点化

#### 高齢者の社会的孤立の性差の検討

先行研究において、就労していた男性は職場中心の人間関係を築いている傾向が強く、退職後社会活動への参加のきっかけを掴みにくく、社会的孤立の要因となっている。一方、女性の就業状況は大きく変化しており、先行研究で示唆されている退職後の高齢期の人間関係の変化や他者とのつながりにおいて女性も男性と同様に地域との交流や社会参加の機会をつくりにくい状況があることが推測された。そのため本研究では当初男性高齢者に対象を限定していたが、全ての高齢者を対象とし、性別による違いを考察し、それらの特徴を捉えて支援の方略を検討することとした。

#### 先行研究調査結果を活用した分析による研究対象の検討

研究対象は、調査対象自治体の推薦および、山埜ら(2020)のアンケート調査結果もとに抽出した。介護予防活動の参加者間のサポート授受の実態を既存の尺度を用いて測定した結果、バランスのとれたサポート授受の関係性が多かった高齢者が在住する小学校区で開催されている介護予防活動グループのリーダーとした。さらに上記の結果から男性高齢者には限定しないこととした。

### (2) インタビュー調査の実施

調査期間は2019年7月から12月であった。研究参加者の性別は男性6人、女性10人で、平均77.3歳であった。インタビュー前に、フェイスシートで、研究参加者の情報(年齢、性別、所属している介護予防活動の開催頻度、参加期間、参加のきっかけ)について尋ねた。次にインタビューガイドに基づき半構造化面接を行った。インタビュー内容は、参加している介護予防活動の参加者同士のサポート授受の内容と状況、参加者間でのサポート授受を促すきっかけ、活動の中で工夫していることについてである。面接は研究参加者の自宅もしくはプライバシーを確保できる個室で行った。参加者の許可のもとICレコーダーで録音した。分析は録音したインタビュー内容の逐語録を作成し、研究参加者の言葉から参加者同士のサポート授受を促すきっかけ、活動内でサポート授受を促すための工夫内容を抽出しデータとした。また抽出したデータの意味を損なわない文脈で区切り、コード化し意味内容の類似性と相違性を比較しながらサブカテゴリー化した。さらにサブカテゴリーを内容別に分類し抽象度を高め、カテゴリーを抽出した。分

析は共同研究者間で結果の合意形成が得られるまで検討を重ね、質的研究に精通した研究者のスーパーバイズを受け研究結果の妥当性の確保に努めた。

#### 4. 研究成果

##### (1) 住民主体の介護予防活動の参加者同士で授受し合うソーシャルサポートの内容

介護予防活動の参加者がサポート源となり、お互いにサポートを授受し合っていた。具体的な提供サポートは情緒的サポートとして参加の声掛けや参加しやすい雰囲気づくりなどの【活動に参加継続するための働きかけ】があった。また活動に慣れるまで意識的に声をかけるといった【活動中での居場所づくり】をしていた。また活動外のサポートとしては【活動日以外にも日常的に体調を気遣う】ことが挙げられた。また評価的サポートとして、提供したサポートに対する感謝の言葉をもらうといった【提供したサポートに対する相手からの称賛】があった。情動的サポートとして自ら健康情報を入手したり、専門職とつないで【健康情報を積極的に入手して他者に広める】ことをしていた。パソコンを使ってチラシをつくらせるといった【これまでの経験や能力を生かしてサポートする】を提供している人もみられた。今回の対象は住民主体の介護予防活動に参加している比較的自立した高齢者が多く手段的サポートは少なかった。一方で情緒的・情動的・評価的サポートは参加者同士で取り交わされていた。またサポートを提供した相手から感謝や体調が改善した喜びの声といった評価的サポートを受領することで、さらに他者へサポートすることにつながり、結果的にサポート授受の促進につながっていた。介護予防活動が高齢者自身の能力を地域に活かす場となっていた。サポートし合える人が地域にいることは、孤立を予防することにつながると考える。

##### (2) 住民主体の介護予防活動の参加者同士のソーシャルサポート授受を促すきっかけと工夫

介護予防活動の中で参加者同士のサポート授受を促すきっかけは【地域住民同士のつながりの必要性への気づき】【近所で頻回に顔を合わせる気軽な機会が大事という実感】であった。サポート授受の促進の工夫として、【参加者同士の関係性づくり】や【活動グループの一員であると思えるような関わり】が行われていた。また【参加者ができそうと思えるサポート提供のきっかけづくり】を活動内で意図的にすることで、誰もがサポートを提供しやすくし、お互いにサポート授受しやすい環境を整えていた。さらに役割があることで参加者が能動的にサポートできる仕組みとしているグループのリーダーは【負担感なくリーダー役割を担える働きかけ】を意識していた。一方で役割があることで重荷になると捉えているグループのリーダーは【あえて役割を決めず自然に参加できる流れづくり】を意識して工夫していた。

介護予防活動を通して地域のつながりを構築したい思いが、活動内のサポート授受を促すきっかけとなっていることが明らかとなった。リーダーは活動の中で参加者一人ひとりを大事にし、参加者の潜在能力を引き出す関わりとサポートしやすい雰囲気づくりを大事にしていた。活動内で役割を担うことについては参加者の状況に応じた対応が必要である。介護予防活動を通じて、住民同士がサポートしあう地域づくりにつなげることが重要である。

##### (3) 都市部の住民主体の介護予防活動を活用した地域のつながり強化のための支援の方略

以上の結果から、サポート授受の考え方を取り入れた地域活動を推進していくための方略として 参加者一人ひとりを尊厳した関わり つながりやすい雰囲気づくり 参加者の表出されていない特技や趣味を視野にいれ、参加者自ら支え手となるために彼らの潜在能力を引き出し発揮できるような関わり、が重要である。それが活動の継続及び地域づくりにつながると考える。超高齢社会の進展において、地域共生社会では、身近な地域で住民が世代や背景を超えてつながり、相互に役割を持ち「支え手」「受け手」という関係を超えてサポートし合う取り組みを支援することが地域課題の解決の強化に向けては不可欠である。地域看護実践において介護予防活動の場を高齢者自身の健康維持・増進だけでなく、サポート授受のきっかけの場として活用することで、地域づくりがより活性化していくと考える。

##### (4) 今後の課題

本研究の分析結果からは性差による明らかな要因や特性は見られなかった。定年まで就労していた退職後の高齢者からは地域のつながりがないなどの意見もみられたことから、退職後の高齢者が孤立しないような支援プログラムの検討を今回の得られたデータを元に、性差を踏まえ、検討を行っていく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 山埜 ふみ恵、草野 恵美子、上野 昌江	4. 巻 25
2. 論文標題 住民主体の介護予防活動のリーダーが捉える参加者同士のソーシャルサポート授受を促すきっかけと工夫	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本地域看護学会誌	6. 最初と最後の頁 37～45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20746/jachn.25.3_37	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 山埜ふみ恵、草野恵美子、上野昌江
2. 発表標題 Social support given and received by participants in resident-led preventive care activities
3. 学会等名 26th East Asian Forum of Nursing Scholar（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山埜ふみ恵、草野恵美子
2. 発表標題 Ingenuity in facilitating reciprocal exchange of social support in activities captured by leaders of resident-led preventive care activities
3. 学会等名 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山埜ふみ恵、草野恵美子
2. 発表標題 都市部の介護予防活動におけるソーシャル・サポート授受の関係性を構築する要因の検討
3. 学会等名 第9回公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------